



2009年9月より、米国バージニア州のバージニアコモンウェルス大学小児科学教室に留学し、気道炎症、ムチン産生、分泌に関する研究を行っています。

バージニア州は、米国東海岸沿いの中ほどに位置し、全米の中では比較的温暖で過ごしやすい気候です。昨年冬は、記録的な厳しい寒さの中、大雪も何回か降り、朝晩は松本よりむしろ寒いのではと感じましたが、今年は、例年並みに戻ったのか、今のところ穏やかな冬をむかえています。夏はこちらでは蒸し暑いとされていますが、日本と比べ梅雨もなく、はるかに過ごしやすいといった印象です。

指導教授のRubin教授は、ムチン研究がご専門で、ラボの入り口には“Mucus Lab”と記され、彼の車のナンバープレートは“MUCUS”です。2009年7月より、ここバージニア州の南に隣接するノースカロライナ州より、こちらへ転任されたばかりです。

私が着任した当初は、ラボの移動後2カ月足らずということもあり、実験室はまだガラとした印象で、実験機器も十分ではありませんでした。すでに着任し準備していたポストドク2人と、若い女性ラボマネージャーに合流して、ラボを開設することからスタートしました。異国での、各種実験機器の選定、購入、実験環境の整備は、やはり大変で時間もかかり、信頼できるデータを揃えられるようになったのは、最近のことです。

ここにある実験系は、大きく分けて3つで、培養細

胞を扱った *in vitro* の系と、小動物由来の気管を用いた *in vivo, ex vivo* の系、それから、Rubin教授が物理学を過去に専攻されていた関係で、ムチンのレオロジーを測定する実験系があります。

私も含めたポストドクは、これまで *in vitro* を中心に研究し、興味深いデータが揃うとラボマネージャーやRubin教授の指導の下、小動物のモデルでさらに検討を加えてきました。また、ムチンのレオロジーを測定するための見慣れない機器が、ここにはいくつかあり、ラボマネージャーを中心に、テクニシャンやカレッジ学生が、各地から冷凍で送られてきた様々な疾患の患者の喀痰から、様々なデータを取っています。

1年余り経ち、ラボは少しずつながら大きくなり、現在は、新生児科の教授もPIとしてラボに加わり、PIは2人体制となり、ポストドクの私に、ラボマネージャーとテクニシャンが1人ずつ、これにクリニカルフェローやパートタイムのテクニシャンなどが、入れ替わり来て仕事をしているような状況です。ポストドクは私1人となり、英語しか使えない状況になり少し経ちますが、言葉ができないと大人しく見えるのか、実験プロトコルの作成の依頼や、グラデュエイト学生への面倒を見るように言われたりなど、同僚から何かと声がかかります。私としては、日本時代とあまり変わらない感覚で仕事をしているのですが、こちらの同僚としては、そういうわけにはいかないようで、先日は、ラボマネージャーの結婚式にもご招待いただきました。ノースカロライナ州の閑静なファームで結婚式は行われました。晴天の中、新婦が馬に乗って登場し、連れてきた3人の子供たちも喜んでいました。日本とまた違ったカジュアルな雰囲気の結婚式で、良い思い出になりました。

厳しい医療情勢の中、臨床医でありながら、研究のためのまとまった大変貴重な時間を頂けたことは、本当に幸せなことで、第1内科の先生方に心より感謝しております。良い経験となるようがんばります。

(2010年11月)

(信州大学医学部呼吸器・感染症内科所属)